

まちぢから

令和3年(2021年)12月発行 第6号
 編集・発行
 茅ヶ崎市まちぢから協議会連絡会
 〒253-8686
 茅ヶ崎市茅ヶ崎1-1-1(茅ヶ崎市役所内)
 電話:0467-84-9781
 F A X : 0467-84-9782
 E-mail : chigasaki-machiren@aioros.ocn.ne.jp
 https://c-machi.sakura.ne.jp/wp/

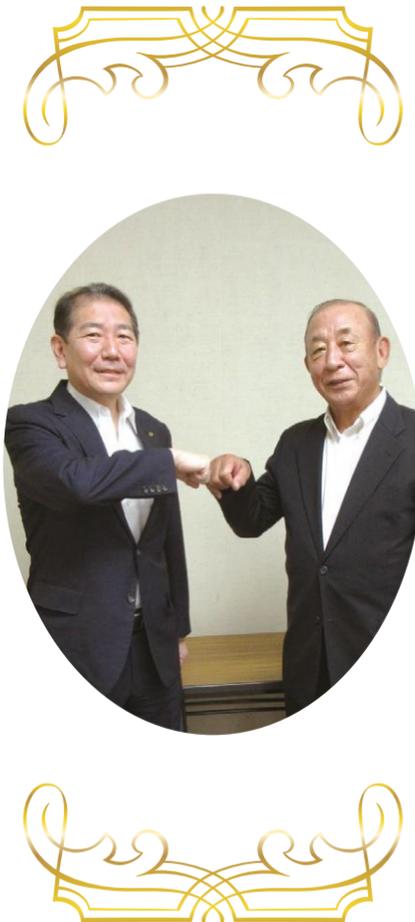
さあ、種をまこう

茅ヶ崎市まちぢから協議会連絡会

会長 後藤 金蔵

今年もコロナウイルス感染防止に追いかけてきた1年でした。しかしようやく、今年後半にはワクチンの接種も進み、少しずつ制限も緩和されつつあります。ほとんど活動ができなかったこの約2年の間、例年の活動も含めて、地域活動をどのように企画運営していくか、また、どのように参加していくか考えられたのではないのでしょうか。

来年は新しい生活様式を反映し考えてきた取組を実現するための種をまく年になるのではないかと思います。当連絡会も各地域の情報を交換しながら、地域の特性を踏まえた中で市全体としての地域づくりの取組の方向性を考えていきたいと思っています。地区まちぢから協議会の取組も困難を乗り越え実を結んでいくために、皆さんと努力していきたいと思っています。



アフターコロナを見据えた

地域活動の発展に向けて

茅ヶ崎市長 佐藤 光

茅ヶ崎市まちぢから協議会連絡会並びに各地区まちぢから協議会の皆様におかれましては、地域と行政との協働による、より良いまちづくりの推進にご尽力をいただき、厚くお礼申し上げます。

見据えて発展的な地域活動についてご検討いただいております。特に市民集会については、より地域に即した具体的な手法により、課題解決の成果に結びつける新しい実施方法を企画・検討しております。

世界的にも新型コロナウイルスに対抗するワクチンの接種が進み、これまでの日常を取り戻せる兆しが見え始めています。各地区まちぢから協議会の皆様におかれましては、アフターコロナを

先人たちが残した偉大な「温故知新」という言葉に体言されているとおり、過去の実績や研究結果を踏まえて、新たな発見が得られるよう、まちぢから協議会のさらなる深化にご期待申し上げます。

コロナ禍における令和3年度

これからの市民集会のあり方・実施方法について

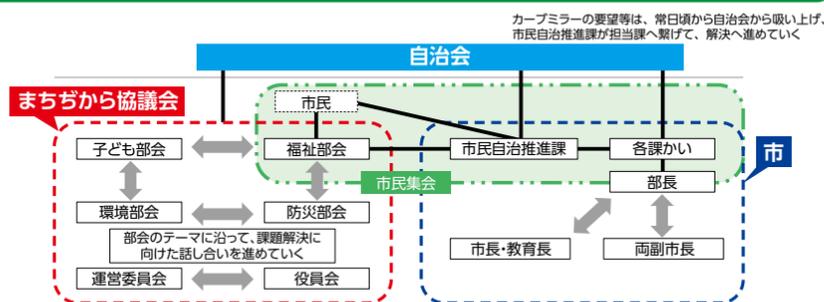
モグラ型 個々の地域課題について、解決方法を見つけること。

ドリーム型 その地区の将来のあるべき姿を市と協議会で語りあうことで、今後の協議会の活動について、その方向性を決める機会とする。

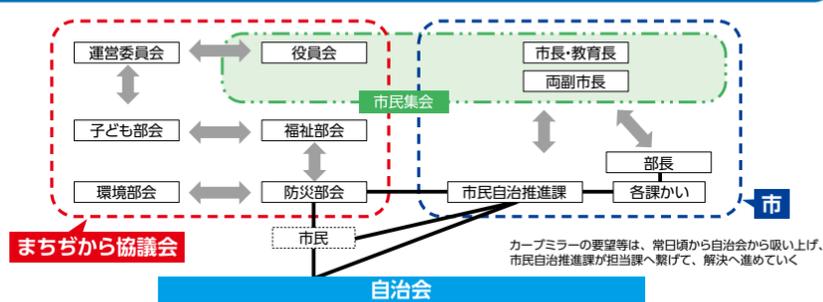
新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けている昨今において、これまでの不特定多数の市民や行政幹部が一堂に会する実施は非常に困難であると考えています。そういった状況においても、地域と行政が一緒になって地域課題の解決やこれからの茅ヶ崎市のあるべき姿を目指すために、市からの提案を受けて各地区まちぢから協議会が様々な検討を重ねている状況です。

市から提案のあった **モグラ型**・**ドリーム型** の実施方法など各地区において工夫している実施方法について、次のとおり紹介します。

モグラ型市民集会 《地域課題を深掘り！解決！》



ドリーム型市民集会 《夢を語り合い協働で実現していく》



～地域と市が課題を共有～「松浪地区会議」を実施

松浪地区まちぢから協議会

松浪地区では、9月11日土曜日、13時30分から15時00分まで、松浪コミュニティセンターにおいて、「松浪地区会議」を開催しました。

この会議は、コロナ禍に対応し、例年行っていた多くの方が集まる「市民集会」ではなく、事前に、松浪地区まちぢから協議会運営委員会において、地区がどうしたら良くなるか、地区として困っていることは何か、皆さまからのご意見・ご質問を募集し実施しました。

当日は、新型コロナウイルスの対策として、できるだけ所要時間を短くすること、換気、ソーシャルディスタンス、密にならないように注意を払い、マイクの消毒を行いました。

会議のテーマは、皆さまからの意見が多かった「生活環境関連」に絞りました。市から「ごみの有料化」、「戸別収集」についての説明を受け、意見交換を行いました。意見交換では、地域から「ごみの集積場所」に関して地域の抱えている苦勞や悩みを市に伝えました。

「松浪地区会議」を行い、地域の苦勞や、思いを伝え、課題を共有することで、どうしたら地域がさらに良くなるか、市と一緒に考えて行くきっかけになりました。今後も継続して対話する機会を増やしていこうと思います。



今年も「市長と未来を創る会」を実施 小和田地区まちぢから協議会

小和田地区では、2016年のまちぢから協議会の発足と共に、従来の「市民集会」を「市長と語る会」に改め実施しております。

各自治会の問題点は都度、担当課と詰める様にし、「市長と語る会」は小和田地区全体の取組について話し合う形にしました。

市側からは市長、副市長、教育長に出席頂き、2部制で1部では各部会の取組内容を報告し、2部では小和田地区のあるべき姿への提言等を自由に話し合う場として活用しております。

昨年からは、コロナ禍のため、従来の「市長と語る会」は開催できず、「市長と未来を創る会」として役員が市役所に行き、小和田地区の取組を市長に聞いてもらい小和田の未来について話し合う場としました。今年も、8月26日に市役所4階会議室にて役員8人が出席し実施いたしました。

- 1部では 1. 東小和田交差点の交通安全啓発活動…交通安全本部
2. 認知症高齢者声かけミニ模擬訓練…福祉部
3. みちの愛称プロジェクト…辻堂駅西口周辺まちづくり部

の報告をPPTとビデオを用いて報告しました。

2部では塩崎・岸両副市長から上記3項目についての感想・意見等頂き、佐藤市長からは、「小和田地区はまち協の活動が色々な所で良い接着剤になっていて、地域が良くなるとまっていると思うので、今後もその効果的な諸活動を続けていって欲しい。」との総評を頂きました。今後とも地域と一緒にコツコツと地道に取り組んでまいります。



松浪地区まちぢから協議会

「あいさつは今年も、以前から地域のいたる所に掲示していた。『あいさつ』という看板をリニューアルすることを思いつきました。300枚の茶色い杉板と文字の印刷用のシルクスクリーンを用意し、松浪中学校美術部に制作をお願いしました。美術部もコロナの影響で作品を展示する機会がなく、目標を失いかけていたところ、地域のために制作できると大変喜んでくれました。生徒からは『自分たちの表現した作品が地域にかざられると思うとうれいです。』「看板をきつかけにあいさつをしてもらえよう、看板が目にとまるような配色を工夫しました。」



完成品



シルクスクリーンで文字を刷る



看板に絵を描く

コロナ禍での活動

松浪中学校との連携

までももしていましたが、作品に対して気持ちを込めて作っていると、あいさつにも気持ちを込めることの大切さを感じました。」との感想をいただきました。

4ヶ月かかって約半数の150枚が仕上がりに、現在、少しずつ地域の看板を掛け替えているところです。



各地区で色々な取り組みが進んでいます

コロナ禍においても工夫を凝らしながら行われている11地区の活動を紹介します。



海岸地区まちぢから協議会

「コロナ禍での避難所運営マニュアル」も同様に検討している。この感染対策に知識と訓練を経験を求められる事になると考えられます。

コロナ禍でのHUG訓練から見えた事

今後、運営に携わる私達は、この感染対策に知識と訓練を経験を求められる事になると考えられます。



HUG避難者の対応を協議中

鶴嶺西地区まちぢから協議会

鶴嶺西コミセンに

まちぢから協議会連絡書類ケース設置

鶴嶺西地区まちぢから協議会では、コロナウイルス感染防止対策と、連絡書類・配布物等の事務処理の効率化を考慮し、宅配できなく、引取りが出来ないかと考えました。



鶴嶺西コミセンのレターケースの置き場

での回収は可能であり効果があると判断して、コミセン内に30トレイのレターケースを設置し、役員・団体・部会・自治会の26ヶ所を利用しています。

湘南地区まちぢから協議会

湘南地区では、路線バスやコミュニティバスの通っているエリアに限られているため、普段の買い物や病院への通院等で困っている住民がたくさんいます。

湘南地区での「おでかけワゴン」運行

利用者の方にはコロナ感染対策を徹底していただき、運行しています。利用の皆さまからは、ご好評をいただいております。また、令和3年8月27日から、翔の会より新車を提供いただき利用しています。



8/27～新車(翔の会提供)で運行開始



乗る前に感染対策、手指の消毒実施

鶴嶺東地区まちぢから協議会

地域の子どもは地域で守る・育む、

地域も子どもと共に育つ

「地域の子どもは地域で守る・育む、地域も子どもと共に育つ」を理念とし、鶴嶺東地区まちぢから協議会は全部会一丸となって「子どもを見守る活動」を事業として今年度より始めました。



にこちゃんばた!

問題・課題の共有化などができていません。そこで、各校の見守り活動調査から開始し、今後、調査結果の相互共有、見守り活動の充実(見守り旗の購入と配布、見守り人員の増員など)につなげていきます。見守り旗の購入と配布については、市の特定事業として申請することで進めております。最後に今回新たに「鶴のマーク」の鶴嶺東地区のロゴも制定し、見守り旗にも使用する予定です。

小和田地区まちぢから協議会

東小和田交差点の交通安全啓発活動

小和田地区では、自転車の通行量が多く、右側の歩道をスピードを出して走っている姿が多く見られました。これを少しでも解消する為に、重点項目の一つとして取組みを開始しました。丁度、神奈川県で展開している「交通安全ひとこえ運動」の一環に合わせ、4月から自転車のマナーアップを図り、ひとにやさしい（人優先）意識の向上に取り組んでいます。場所は小和田地区で一番交通量の多い東小和田交差点を選びました。コロナ禍の中、声は出せない。どうしようか？検討の結果、まち協の参加団体に啓発文を録音してもらい、それをつなげてインプレスでラジオカセをアプリに繋ぎ流す。我々はマスクをして啓発ボ



活動後の集合写真、キレイに写ってるかな？



マスクをして啓発ボードでアピール中

ドを持ち声を出さずにアピールする。としました。時間は通勤・通学時間の7時30分から8時20分としました。上期は基本2回/月(月と水)実施しました。下期も1回/月実施中です。毎回15名前後で啓発活動はしますが、今は、かなりの自転車が信号の手前で郵便局側へ移動してくれず、これを定着させるために粘り強くこの活動を続けていきます。

南湖地区まちぢから協議会

旧西浜駐車場跡地の利活用について

南湖地区まちぢから協議会では、今年度は地域に残された課題として「旧西浜駐車場」の跡地利活用についての協議を行っております。

令和3年6月22日(火)担当の産業振興課と同計画についての打合せを行い、今までの経過確認と現在考えられる希望施設の提案をし、今後の段取りについて協議をしました。

現地は「茅ヶ崎市グランドプラン」D地区として位置づけられており、民間活力を導入した観光・商業・市場施設等を設置し茅ヶ崎漁港、海岸まちづくりと一体となった土地利用を図ることとなっております。

一時「茅ヶ崎丸大魚市場」を主体とした水産振興の拠点としての計画がまとまり掛けましたが、残念ながら魚市場は市内から撤退し平塚魚市場と合併したため実現しませんでした。その後、毎年の市民集会では継続課題として議題に上げてまいりましたが、今年度より南湖地区まちぢから協議会の中で地域を考える重要課題として取りあげ、担当課と協議を進めてまいります。

同時に地域各方面(一般会員、西浜小中学生、学童保育、その他)への広範囲な意見、アイデアの募集を行っており、年内を目途に地域の意見として取りまとめ行政への提案を行う予定であります。



旧西浜駐車場跡地

松林地区まちぢから協議会

子育て世代の居場所・かんがるうのぼっけ

松林地区まちぢから協議会子ども部会では空き家を利用して「おむすび松林」として多世代交流の場を提供して毎回盛況で実施してきましたが密集状態は避けられず、新型コロナウイルス感染症予防の為、活動を自粛してまいりました。しかし外出自粛で他人との接触機会が減り地域の情報や子育て中の情報が不足する親子の孤立を防ぐ為、今年度から「子育て世代の居場所・かんがるうのぼっけ」を、おむすび松林と同じ空き家を利用して開催しています。感染予防策として参加は予約制・親子5組限定・検温・手指消毒・マスク着用・飲食の提供なし・水分補給は各自持参・2



親同士のつながりも生まれています

時間限定開催としています。初めて顔を合わせた親子もすぐに打ち解けて有益な情報交換ができていくと判断しています。順調に滑り出した「かんがるうのぼっけ」ですが7月下旬から新型コロナウイルス感染症拡大により非常事態宣言が再度発令されたため一時休止(7月~9月)しました。10月より再開しています。

小出地区まちぢから協議会

相州小出七福神巡り

市の北部、緑豊かな環境の中に「福をもたらず」相州小出七福神が祀られています。案内看板・のぼり旗・チラシ・スタンプラリー用のパンフレット等を作成し、令和2年1月7日に第1回目の「相州小出七福神巡り」のイベントを開催しました。小和田地区からはマイクバス2台で40名の方が参加され大いに盛り上がりました。令和3年は、新型コロナウイルス感染が拡大し、開催が危ぶまれましたが、屋外の行事であり、ソーシャルディスタンスを保ち、感染防止の消毒液を配置、ベスト着用の道案内人を増やす等、万全の体制を整え、第2回目を実施しました。7寺の協力を得て、のぼり旗も50本以上追加し、お寺周辺はパンフレットを



70本ののぼり旗



ベスト着用の道案内人



カラフルなチラシ

持って歩く姿で賑わいました。地域活性の起爆剤として、「大人も子どもも元気に遊ぼう」をモットーに、今後もイベントを続けていきます。皆様のお越しをお待ちしております。

浜須賀地区まちのちから協議会

オンライン会議・実用化

浜須賀地区まちのちから協議会では、会議の時間短縮や連絡手法を可能な範囲でメール化するなど、コロナ禍での取組を工夫しています。そのなかで、浜須賀小学校区青少年育成推進協議会では、2つの活動に絞って再スタートしています。1つめは「学校と地域をつなげる活動」。役員会議を隔月1回オンラインで行い、学校や地域の情報交換を行っています。当日の議事内容は画面で共有しながらその場で議事録を作成し、内容を地域の方々へお届けすることに努めています。2つめは、「子どもたちの安全安心を守る活動」。小学生の下校時にできる範囲で見守りを行うこととしました。オンライン会議等やスマホのアプリで役員同士がつながり、適宜相談す



これで会議やってます

ることで補っています。今後は、役員だけでなく、地域の皆様とも適宜連絡がとれるような体制を目指し、コロナ禍での活動を進めていきたいと考えています。

湘北地区自治会連合会

変わらぬ日常

新型コロナウイルスの感染拡大に伴う緊急事態宣言により、地域の納涼祭・花火大会等々多くのイベントが中止となる中、湘北地区にある公園では、コロナに負けない変わらぬ日常がありましたので紹介致します。香川駅近くの住宅に囲まれた公園では毎年4月から10月までの間(昨年からはマスクを着用して)ラジオ体操が行われてお



ラジオ体操風景



住居表示案内図



ラジオ体操出席カード

と子供たち、親子づれ、お年寄りが集まり、6時半からのNHKラジオ体操の放送と共に元気に体操する姿が見られました。このNHKラジオ体操は1928年に放送が開始され、93年目を迎えました。今年も変わらない夏の日常がそこにある。子供たちにも広がっている。コロナが、一日も早く終息することを願います。

令和3年
6月12日(土)
午後2時～
午後4時まで

情報交換会を開催しました

テーマ 「コロナ禍における地域活動と今後の地域づくり」

出席委員 13地区委員を含めた各地区2～3名程度の出席



茅ヶ崎市においては、13地区のうち12地区において地区まちぢから協議会が設立されており、各地区において自治会を基盤に多くの住民や各種団体が地域をあげて、地域づくりを行う取組が始まっております。

行政もこの取組を支援するため、地区担当職員を配置し、また平成28年4月には、「茅ヶ崎市地域コミュニティの認定等に関する条例」が施行され、地域における公益的な取組に対する支援が行われています。

そのような状況下で平成30年度より地区まちぢから協議会情報交換会を開催し、各地区におけるまちぢから協議会の取組状況の紹介や公的支援を受けた特定事業や地域独自の取組発表を実施し、各地区の取組の活性化を図ってきました。

2020年度は、未曾有のコロナ禍により、地域活動を制限せざるを得ない状況下となりました。まだまだ、終息のめどがつかない状況下を踏まえ、「コロナ禍における地域活動と今後の地域づくり」をテーマとして、各地区の工夫した事例、今後の地域づくりのヒントを得られるよう、令和3年度 茅ヶ崎市まちぢから協議会情報交換会を実施しました。

当日は、Zoom等の情報資機材を活用したオンライン会議の実績と課題、ソフトバンク社によるスマホ教室の実施報告などが行われました。

また、まちぢから協議会の役割・あるべき姿については、その時々々の時々の課題によって、常に変化すると考えられます。

茅ヶ崎市が笑顔と活力にあふれた街になるように、まちぢから協議会連絡会内に「みんなで未来を創る部会」を創設することに関する説明があり、今後、検討がなされることとなりました。

この部会は、話し合うテーマによって、地区まちぢから協議会の構成委員誰もが

関わることのできる部会となるような組織を目指しています。例えば、各地区に参画している公募委員、広報実務担当者などの具体的な活動に即した中心人物が、他地区の活動状況を知り、より自身の地区に反映できる情報交換の場を目指します。

各地区正副会長
まちぢから協議会連絡会

報告

みんなで未来を創る部会
広報実務者・公募委員、委員相互の情報交換



編集後記

秋が深まり中央公園（第一カッター）きいろ公園の木々も色づき本格的な冬を迎えようとしています。昨年に続きコロナ禍により、今年度も市内各地区での合同防災訓練等中止となりましたが、各自治会毎に工夫しながら感染防止を最優先にし

て安全確認訓練を実施した地区もありました。今後も一人一人が感染対策を続けていきたいと思います。某自治会の訓練テーマ

「コロナで絶やすな近所の絆」

(K・O)

令和3年度まちぢから協議会連絡会委員



鶴嶺東 尾坂 清	鶴嶺東 森谷 義明	松浪 末松 一豊	小出 高木 英明	松林 滝本 誠	湘南 高山 和茂	海岸 真野 宗直	南湖 秋本 武久	湘北 長嶋 憲治	湘北 鈴木 健司
茅ヶ崎 城田 禎行	茅ヶ崎 河内 昇	松浪 前田 積 (監事)	小出 矢野 福徳 (会計)	松林 細田 勲 (副会長)	湘南 後藤 金蔵 (会長)	海岸 林 正明 (副会長)	南湖 三薗 健一 (監事)	茅ヶ崎南 倉金 榮	茅ヶ崎南 篠原 徳守
浜須賀 日向 清志	浜須賀 朝倉 哲男	小和田 新倉 昭人	小和田 零石 剛	鶴嶺西 貴島 義夫	鶴嶺西 鈴木 喜明				